

彙 報

会 長 窪 蘭 晴 夫

——常任委員会——

2016 年度第 2 回常任委員会

日 時：2016 年 10 月 23 日(日)11:00～17:00

場 所：東京大学本郷キャンパス 文学部 3 号館 6 階 3604 室

出席者：窪蘭晴夫(会長), 有田節子, 井上 優, 上山あゆみ, 加藤重広, 小泉政利, 小林 正人, 斎藤 衛, 玉岡賀津雄, 吉田和彦 (以上, 常任委員), 野田尚史(事務局長)
オブザーバー：金水 敏(編集委員長), 佐々木 冠(大会運営委員長), 中谷健太郎(広報委員長), 佐久間淳一(夏期講座委員長), 金城由美子(事務局委員)

(欠席：内藤真帆 事務局委員)

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

第 153 回大会 (2016 年秋季大会)：2016 年 12 月 3～4 日, 福岡大学 (大会実行委員長：江口正氏)

第 154 回大会 (2017 年春季大会)：2017 年 6 月 24～25 日 (予定), 首都大学 東京 (大会実行委員長：小川定義氏)

第 155 回大会 (2017 年秋季大会)：2017 年 11 月 25～26 日 (予定), 立命館大学衣笠キャンパス (大会実行委員長：有田節子氏)

第 156 回大会 (2018 年春季大会)：2018 年 6 月 (予定), 東京大学本郷キャンパス (大会実行委員長：西村義樹氏)

第 157 回大会 (2018 年秋季大会)：2018 年 11 月 (予定), 京都大学

(3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 言語系学会連合からの報告

・今年度言語学会は事務局担当学会として国立国語研究所と共催で、シンポジウム『オノマトペの魅力と不思議』(2017 年 1 月 21 日(土)学術総合センター)を開催する。また 6 月 19 日に加盟学会の意見交換会が行われ、聴覚等の障害を有する会員への支援、科研費の採択状況などについて情報共有が行われた。

(5) 事務局からの報告

1. 退会者の年齢分布について

40 才までは入会者が退会者を上回るが、それ以上の年齢層では逆の傾向が見られる。

2. 熊本地震の被災者に対する会費免除状況について

現在までに 7 名の会費免除が行われた。

3. 会費の納入状況について

9 月末日時点で約 86%の会費納入があり、残り 14% (273 名) が未納である。

4. 会費滞納者への督促 (1 月) について

事務局からの督促の後も未納の会員には、昨年度と同じように常任委員から個々に納入を呼びかける。

5. CIPL の年次報告書について

CIPL 日本代表者の田窪行則氏から年次報告書が提出され、学会ホームページに掲載されている。

6. 過去の彙報 (議事録) の電子化とオンライン公開について

過去の彙報の電子化の作業は順調に進んでおり、数ヶ月以内にホームページでの公開を行う予定である。

7. 『言語研究』電子投稿・査読システムの導入について (J-STAGE への応募)

2017 年 2 月の運用開始を目指し、科学技術振興機構が提供する科学技術発信・流通総合システム (J-STAGE) 投稿システムの利用を申し込んだ。

8. 大会開催校の Wi-Fi, eduroam について

次回大会より予稿集がオンライン公開となるため、大会開催校の参加者への Wi-Fi 接続提供, eduroam 利用の可否などを確認した。

9. 今後のメールマガジンスケジュールについて
今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。

(6) 学会ホームページの更新について

・学会ホームページでの情報更新が滞りなく行われているか、各委員会を担当を決め確認を行う。

(7) 日本学術振興会の実地検査について

・9月29日(木)に言語学会事務局において科学研究費助成事業(研究成果公開促進費)における経理状況等の実施検査が行われ、事務手続きの改善についていくつかの指摘を受けた。

(8) 聴覚障害を有する会員への支援について

・聴覚障害を有する会員への支援内容についての問い合わせがあった。次回大会での数件の支援申し込みがあった。

[審議事項]

(1) 2017年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の応募について

・科研費申請書(計画調書)の内容について検討した結果、Eジャーナルの刊行計画や『言語研究』の国際的地位向上の事項を追加する方向で申請案を検討した。

(2) 80周年記念事業について

・2018年度の80周年記念事業として、記念大会や夏期講座に海外の研究者を誘致する案や『80年間の歩み』(オンライン版)を刊行する案が出され、詳細については80周年記念事業ワーキンググループを中心に検討を進めることを決定した。

(3) 大会発表応募用紙の改訂について

・大会運営委員会から、大会発表賞の審査プロセスを簡素化するために大会発表応募用紙を改訂する案が出され、これを承認した。

(4) 大会当日の資料配付及びプロジェクトでの追加情報について

・大会運営委員会から、大会当日の資料配付が禁じられているにもかかわらず資料

を配布する発表者や、応募要旨や予稿集原稿と大幅に異なる内容をポスターやプロジェクトで提示する発表者がいることが報告された。この問題を解決するために「大会発表要項」に注意事項を追記することが承認された。

(5) 大会参加費の徴収について

・2017年から大会参加費が改定され、会員/非会員、一般/学生の違いにより参加費が異なってくることに関連し、会員資格と学生資格の確認方法について検討を行った結果、大会運営委員会の案を承認した。

(6) 学会賞の申し合わせの改定について

・学会賞選考委員会から、大会発表賞の授賞を2回まで認める(ただし初回の授賞から2回目の授賞まで2年間は空ける)案が出され、これを審議した結果、評議員会に提案することが承認された。また学会賞(論文賞と大会発表賞)の年齢規定を見直す案と、論文賞に2種類設ける案を検討した結果、両案について評議員会で意見を求めることを決定した。

(7) 保育室の運用方法について

・大会当日の保育室の利用状況について報告があり、今後の運用方法について検討した。学会が保育室を準備する現行の方法と、利用者が独自に保育施設を予約し、その利用料の一部を学会が負担する方法の2つの支援策について検討を行った結果、メールマガジンにより会員の意見を求めることを決定した。

(8) 大会発表賞対象者の会費条件について

・大会発表賞の対象者に求める会費条件について検討した結果、大会発表申込時の年度の会費納入を授賞対象の条件とするという案を承認した。

(9) 被災者に対する会費免除の基準について

・会費免除の対象となる被災者の範囲・基準について検討した結果、政府が激甚災害と認定した災害を基準とし、実際の適用基準についてはその都度常任委員会で決めるという案を承認した。

- (10) 彙報の新入会員名記載中止について
- ・彙報に掲載されている新入会員の名簿について検討した結果、退会会員と同様に種目別の人数を記載するに留めることを決定した。
- (11) 日本学術振興会育志賞受賞候補者推薦の選考方法について
- ・候補者の選考方法について検討した結果、『言語研究』に論文が掲載された大学院生の中から論文賞受賞者を軸に推薦候補を選出することを決定した。
- (12) 旅費・謝金等の支給に関するガイドラインおよび申し合わせの改定について
- ・9月に行われた学術振興会の科研費実地検査に基づき、「用務のための旅費等の支給に関するガイドライン」と「委員長等への必要経費補助の支払いに関する申し合わせ」を改定し、あわせて「学会賞受賞者の授賞式出席旅費の支払いに関する申し合わせ」を制定した。
- (13) 増収と経費削減について
- ・増収の方法としてホームページで寄付金を募ることを決定した。また経費削減の方法として、『言語研究』の送付を希望しない会員に送付しないシステムを導入する、『言語研究』の印刷費と税理士費用の削減を図る、以上の2つの案を承認した。
- (14) 『言語研究』の国際的地位について
- ・『言語研究』の国際的地位と認知度を高めるために、Elsevier社のデータベースScopusに登録し、Google社のGoogle Scholarで掲載論文が検索できるように、編集委員会を中心に両社に対して働きかけを行うことを決定した。
- (15) 研究室の本の処分方法について
- ・退職した会員が蔵書の処分に困っているという相談について検討した結果、大会会場に用意している資料展示コーナーに書籍リストを置くことを勧める案を承認した。

——評議員会——

2016年度第2回評議員会

日時：2016年12月3日(土) 10:00～12:30
 場所：福岡大学文系センター棟4階第4会議室 (〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1)

出席者：窪園晴夫(会長)、加藤重広、佐々木冠、小野尚之、小泉政利、後藤 斉、池田潤、井上 優、萩野綱男、風間伸次郎、河内一博、北原久嗣、木部暢子、長屋尚典、野田尚史、林 徹、早津恵美子、松森晶子、三宅知宏、渡辺 己、北野浩章、斎藤 衛、佐久間淳一、玉岡賀津雄、堀江 薫、有田節子、梶 茂樹、定延利之、沈 力、田窪行則、千田俊太郎、藤代節、松本 曜、吉田和彦、米田信子、桐生和幸、塚本秀樹、辻 星児、青木博史
 (以上、評議員38名)

委任状：32名

オブザーバー：久保智之(会計監査委員)、中谷健太郎(広報委員長)、金城由美子、内藤真帆(以上、事務局委員)

議事に先立ち、大会実行委員長江口正氏より挨拶が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
- ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
- 第154回大会(2017年春季大会)：2017年6月24～25日(予定)、首都大学東京(大会実行委員長：小川定義氏)
- 第155回大会(2017年秋季大会)：2017年11月25～26日(予定)、立命館大学衣笠キャンパス(大会実行委員長：有田節子氏)
- 第156回大会(2018年春季大会)：2018年6月(予定)、東京大学本郷キャンパス(大会実行委員長：西村義樹氏)
- 第157回大会(2018年秋季大会)：2018年11月(予定)、京都大学

(3) 各種委員会からの報告

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 言語系学会連合からの報告

- ・2016年6月19日に言語系学会連合の意見交換会が開催され、加盟学会が抱える諸問題について意見交換がなされた（詳細は言語系学会連合のホームページを参照）。また今年度の一般向け事業として、日本言語学会が国立国語研究所と共催して公開シンポジウム「オノマトペの魅力と不思議」を2017年1月21日に学術総合センター（東京神田）で開催する。

(5) 事務局からの報告

1. 退会者の年齢分布について

40才までは入会者が退会者を上回るが、それ以上の年齢層では逆の傾向が見られる。

2. 熊本地震の被災者に対する会費免除状況について

現在までに7名の会費免除が行われた。

3. 会費の納入状況について

9月末日時点で約86%の会費納入があり、残り14%（273名）が未納である。

4. 会費滞納者への督促（1月）について

事務局からの督促の後も未納の会員には、昨年度と同じように常任委員から個々に納入を呼びかける。

5. CIPLの年次報告書について

CIPL日本代表者の田窪行則氏から年次報告書が提出され、学会ホームページに掲載されている。

6. 過去の彙報（議事録）の電子化とオンライン公開について

過去の彙報の電子化の作業は順調に進んでおり、今年度中にホームページでの公開を行う予定である。

7. 『言語研究』電子投稿・査読システムの導入について（J-STAGEへの応募）

2017年2月の運用開始を目指し、科学技術振興機構が提供する科学技術発信・流通総合システム（J-STAGE）の論文投稿・査読システムの利用申請をしたところ、採択された。

8. 大会開催校のWi-Fi、eduroamについて

次回大会より予稿集がオンライン公開となるため、大会開催校の参加者へのWi-Fi接続提供、eduroam利用の可否などを確認し、会員にその情報を提供することにした。

9. 日本学術振興会の現地検査について

9月29日（木）に言語学会事務支局において日本学術振興会による科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）の経理状況等の実施検査が行われ、事務手続きの改善についていくつかの指摘を受けた。

10. 聴覚障害を有する会員への支援について

聴覚障害を有する会員への支援内容についての問い合わせがあり、回答した。今年度の夏期講座で音声認識ソフトを使用した、聴覚障害を有する会員への支援として有効ではなかった。

11. 80周年記念事業について

2018年度の80周年記念事業については、80周年記念事業ワーキンググループを中心に検討を進めている。

(6) 2017年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の応募について

- ・「Eジャーナルの刊行と国際研究ネットワークの強化による研究成果の国際発信」という課題名で来年度の科研費に応募した。

(7) 『言語研究』の国際的地位向上について

- ・『言語研究』の国際的評価と引用率の向上のために、編集委員会を中心としてElsevier社のデータベースScopusや、Google社のGoogle Scholar等に登録する計画である。

(8) 大会発表要項の改定について

- ・申し合わせに反して大会当日に追加資料を配布する発表者や、応募要旨や予稿集原稿と大幅に異なる内容をポスターやプロジェクターで提示する発表者がいることに対処するために、「大会発表要項」に注意事項を追記する。

(9) 保育室の運用方法について

- ・大会当日の保育室の利用状況について報

告があり、今後の運用方法についてメールマガジンを通じて会員の意見を求める予定である。

- (10) 大会発表賞対象者の会費条件について
 - ・大会発表賞の対象者に求める会費条件について、大会発表申込時の年度の会費納入を授賞対象の条件とする。
- (11) 旅費・謝金等の支給に関するガイドラインおよび申し合わせの改定について
 - ・9月に行われた学術振興会の科研費実地検査に基づき、「用務のための旅費等の支給に関するガイドライン」と「委員長等への必要経費補助の支払いに関する申し合わせ」を改定し、あわせて「学会賞受賞者の授賞式出席旅費の支払いに関する申し合わせ」を制定した。
- (12) 被災者に対する会費免除の基準について
 - ・会費免除の対象となる被災者の範囲・基準について、政府が激甚災害と認定した災害を基準とし、実際の適用基準についてはその都度常任委員会で決める。
- (13) 寄付金の募集について
 - ・増収の方法として、ホームページに欄を設け寄付金を募る。
- (14) 彙報の新入会員名記載中止について
 - ・彙報に掲載されている新入会員の名簿について、退会会員と同様に種目別の人数を記載するに留める。
- (15) 日本学術振興会育志賞受賞候補者推薦の選考方法について
 - ・『言語研究』に論文が掲載された大学院生の中から論文賞受賞者を軸に推薦候補を選出する方針である。
- (16) 研究室の本の処分方法について
 - ・退職した会員が蔵書の処分に困っているという相談に対して、大会会場に用意している資料展示コーナーに書籍リストを置くことを勧める。

[審議事項]

- (1) 大会発表応募用紙の改訂について
 - ・大会発表賞の審査プロセスを簡素化するために大会発表応募用紙を改訂する案について報告がなされ、文言を一部修正の上、改訂した。
- (2) 学会賞の申し合わせの改定について
 - ・大会発表賞の授賞を2回まで認める(ただし初回の授賞から2回目の授賞まで2年間は空ける)案について審議した結果、原案の通り承認され、申し合わせを改定することを決定した。
- (3) 学会賞のあり方について
 - ・学会賞選考委員会から学会賞(論文賞と大会発表賞)の年齢規定を見直す案と、論文賞に2種類設ける案について説明があり、意見交換を行った。評議員会で行ってきた意見をもとに、学会賞選考委員会でさらに検討する。
- (4) 『言語研究』の郵送を希望しない会員への不送付について
 - ・『言語研究』の送付を希望しない会員に送付しない案が承認され、学会ホームページ上の会員情報管理システムを利用することと、メールマガジン等を通じて会員に周知することを決定した。

——編集委員会——

2016 年度第 1 回編集委員会

日 時：2016 年 12 月 27 日(火)16:00~18:00

場 所：大阪大学文法経済学本館 447 号室

出席者：金水 敏(編集委員長)、風間伸次郎、滝浦真人、米田信子、堤 良一(以上、編集委員)、依田恵美(編集委員長補佐)

[審議事項]

- (1) 論文の impact factor を計るための雑誌データベースである、Scopus への登録を担当している米田委員より、申請のためには「雑誌刊行の目的とスコープ」「ローマン・アルファベットのみの参考文献リスト」が新たに必要である旨報告された。これに基づき、「雑誌刊行の目

的とスコープ」は金水委員長が執筆すること、参照文献リストについては、電子版にのみ掲載するローマン・アルファベットのみの参照文献リストを著者に提出してもらうよう、執筆要項を改訂することとした。

- (2) J-STAGE 提供の投稿・審査システム(Editorial Manager)の概要を金水委員長が説明、それに基づいて執筆要項その他の文書を改訂することについて話し合った(→「編集委員会からのお知らせ」を参照)。

——大会運営委員会——

2016年度第2回大会運営委員会

日時：2016年9月6日(火) 11:00～16:00

場所：中西印刷

出席者：佐々木冠(大会運営委員長)、内海敦子、越智正男、小野寺典子、佐久間淳一、田村幸誠、塚本秀樹、三宅知宏、渡辺 己(大会運営委員)

[報告事項]

- (1) 第152回大会(慶應義塾大学)の反省点、およびそれをふまえた取り組みについて、大会運営委員長より報告がなされた。
- (2) 第153回大会(福岡大学)の準備状況について、大会運営委員長より報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 第153回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表56件(応募111件)、ポスター発表2件(応募4件)、ワークショップ5件(応募6件)を採択することとした。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は8会場7本(移動10分)とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポ

ジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行った。

- (4) 発表当日の資料配付およびプレゼンテーションのあり方に関して議論し、常任委員会への提案を作成した。

——広報委員会——

- ・学会ウェブサイトの学会からのお知らせ(大会情報、論文賞、大会発表賞など)や学会関連情報(公募情報、研究会情報など)を随時更新した。
- ・ウェブサイトの過去ログのメニュー構造に関して以下の基本方針を立てた。
 - a. 言語学会の中核事業およびそれに準ずる事業についての情報(=トップページ「学会からのお知らせ」に記載される情報)の過去ログはこれまで同様独立メニューのもとわかりやすい形で保持する。
 - b. それ以外の情報(他学会の告知や教員公募情報)は、日本言語学会で蓄積する必要性が薄いため、特にアーカイブすることはしない。
- ・同方針に沿って更新停滞している以下のサブメニューを廃止した。
 - ・「学会の諸活動」>「学会関連ニュース」>「教員・研究員公募」
- ・同方針に沿って更新停滞している以下のサブメニューのコンテンツ(過去の他学会告知など)を廃止した。
 - ・「学会の諸活動」>「過去のお知らせ」
- ・以下のコンテンツの階層を上げてトップページからアクセスしやすくした。
 - ・「学会の諸活動」>「学会関連ニュース」>「その他」のコンテンツを「学会の諸活動」>「過去のお知らせ」に移行した。
 - ・「学会の諸活動」>「学会関連ニュース」>「論文・発表・参加者募集」のコンテンツを一階層上げて「学会関連ニュース」の直下に置いた。それにもない「論文・発表・参加者募集」の

サブメニューは廃止した。

- ・ウェブサイトの情報に更新漏れなどがないかをウェブマスター以外の広報委員のご協力のもと、定期的に（隔月程度）チェックする体制を構築する予定。

——夏期講座委員会——

- ・夏期講座2016は、8月23日（火）から8月28日（日）まで大阪大学豊中キャンパスで開催された。参加者は199名と、想定をやや下回ったが、全体としては好評のうちに終了することができた。また、今回から、会員の参加費を4000円割引したが、その結果、夏期講座への参加を契機に入会した会員が50名を数え、新規会員の獲得に貢献することができた。
- ・夏期講座2018は、東京外国語大学で開催する方向で検討中。開催期間、開講科目、担当講師等の詳細は、154回大会に合わせ開催予定の委員会決定する。

——学会賞選考委員会——

2016年度第1回学会賞選考委員会

日時：2016年10月1日（土）14:00～16:30
 場所：南山大学名古屋キャンパスL棟9階小会議室
 出席者：斎藤 衛（学会賞選考委員長）小泉政利、滝浦真人、玉岡賀津雄、早津恵美子、吉田和彦（学会賞選考委員）

〔審議事項〕

- （1）第152回大会発表賞について
 - ・小泉政利大会発表賞選考部会長より、部会による審査過程および審査結果の説明があり、審議の結果、3名の授賞候補者を決定した。
- （2）2016年度論文賞について
 - ・玉岡賀津雄論文賞選考部会長より、部会による審査過程および審査結果の説明があり、審議の結果、2名の授賞候補者を決定した。
- （3）学会賞授賞資格について

- ・「日本言語学会学会賞選考部会内規」に定められた審査対象者などについて審議し、大会発表賞の複数回受賞を可能にする改正案を評議員会に提案することとした。

2016年度第2回学会賞選考委員会

日時：2017年1月31日（火）～2月1日（水）メール審議

〔審議事項〕

- （1）第153回大会発表賞について
 - ・大会発表賞選考部会（小泉政利部会長）による審査過程および審査結果に関する報告書を受けて、メール審議を行い、1名の授賞候補者を決定した。

謝 辞

- ・第152回大会および第153回大会発表賞、2016年度論文賞の選考にあたり、多くの会員に審査員としてご協力いただきました。以下に、承諾をいただいた方々のお名前を掲載させていただきます（敬称略、五十音順）。

〈大会発表賞〉

上田 功	内堀朝子	内海敦子
江口 正	小野 創	小野寺典子
加藤重広	狩俣繁久	木部暢子
藏藤健雄	呉人 恵	小林正人
佐久間淳一	下地理則	杉岡洋子
玉岡賀津雄	田村幸誠	千田俊太郎
塚本秀樹	時本真吾	西村義樹
新田哲夫	橋本邦彦	林 徹
原田なをみ	福盛貴弘	堀江 薫
本間 猛	松岡和美	松本 曜
吉田和彦	渡辺 己	

〈論文賞〉

加藤重広	金水 敏	小野 創
呉人 恵	酒井 弘	狩俣繁久
玉岡賀津雄		

——事務局——

**科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）
における経理状況等の実地検査**

日 時：2016年9月29日(木) 13:30～14:30

場 所：日本言語学会事務支局

出席者：吉田和彦（前事務局長），国料尚子
（言語学会事務支局担当者）

独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究
助成第二課職員2名により，平成23年度か
ら26年度に採択された科学研究費助成事業
（研究成果公開促進費）における経理状況お
よび補助事業の実施状況について実地検査が
実施され，適正との報告がなされた。

第 153 回大会

期日 2016 年 12 月 3 日 (土)・12 月 4 日 (日)

会場 福岡大学

公開シンポジウム 12 月 4 日 (日) 13:20～16:20 (A 棟地下 1 階 AB01)

「方言研究から言語研究へ」

企画・司会：江口 正
 ディスカサント：定延 利之
 有田 節子

- (S 1) 条件文の時制とモダリティの意味論
 一方言条件形式「ギー」をめぐって— 有田 節子
- (S 2) 格体系を調べる方言調査票の開発・利用と問題点
 一九州・琉球方言の事例報告— 下地 理則
- (S 3) 敬語体系の意味論・語用論
 一琉球与那国語の調査・分析の事例報告— 山田 真寛
- (S 4) 係り結びと疑問詞の量化—宮古伊良部集落方言の事例から— 衣畑 智秀

口頭発表

—第 1 日 (12 月 3 日 (土)) 13:00～17:40—

。A 会場

- (A 1) 13:00～ 文処理脳メカニズムにおける構造的距離と線の距離の
 処理負荷の分離 岩淵 俊樹
 幕内 充
- (A 2) 13:40～ 日本語の二重目的語構文の理解 トウエン
 一語順と名詞句の有生性の影響について— カフラマン バルシュ
 広瀬 友紀
- (A 3) 14:20～ 日本語における言い換え型の右方転位構文に関する考
 察 山内 昇
- (A 4) 15:00～ V スギル構文の解釈の統語的決定 東寺 祐亮
- (A 5) 15:50～ 日本語受身文の歴史—除項ラレと加項ラレー— 林下 淳一
 後藤 睦
 金水 敏
- (A 6) 16:30～ 日本語の願望構文における格付与 中村 涉
- (A 7) 17:10～ 目的性従属疑問文の解釈と構造 富岡 諭

。B 会場

- (B 1) 13:00～ 滋賀県湖北方言の存在動詞と名詞句階層・アспект・
 待遇範疇 脇坂美和子
- (B 2) 13:40～ 南琉球宮古多良間方言におけるピッチ上昇の記述 青井 隼人
- (B 3) 14:20～ 南琉球宮古語池間西原方言における否定文の特徴と情
 報構造との関係性 林 由華
- (B 4) 15:00～ 自然談話における宮古島池間方言の *nyaan* について 呉 唯
 一使用頻度に基づく意味機能拡張の仮説—
- (B 5) 15:50～ 聞き手の情報処理に対する話者の推測はフランス語接
 続法の用法にどのような影響を与えるか? —le fait que
 と Pourquoi crois-tu que...? の後の叙法選択と関連性理論 井上 大輔
- (B 6) 16:30～ 日英語母語話者の事態の描き方の違いは事態の捉え方
 の違いの反映といえるか 伊藤 創

- (B 7) 17:10 ~ 感情・感覚を表す擬態語の語彙特性についての考察 吉永 尚
—擬態語動詞の観察を中心に—
- C 会場
- (C 1) 13:00 ~ Variable telicity of nonculminating accomplishments in Takayuki IKEZAWA
Japanese
- (C 2) 13:40 ~ Pragmaticalization as functional bleaching and expressive Lukasz RIESER
enrichment
- (C 3) 14:20 ~ 格助詞「へ」で終わる新聞見出しについて 劉 吉香
- (C 4) 15:00 ~ 談話における使用から見るいわゆる提題の「って」 大江 元貴
- (C 5) 15:50 ~ 等位接続の一般用法について 浅田 裕子
- (C 6) 16:30 ~ 日本手話の条件文：うなずき型とロールシフト型 原田なをみ
高山智恵子
坊農 真弓
- (C 7) 17:10 ~ 日本手話のモダリティ表現にみられる証拠性 松岡 和美
矢野羽衣子
前川 和美
- D 会場
- (D 1) 13:00 ~ 分散形態論における複合語マーカー 大久保龍寛
- (D 2) 13:40 ~ デキゴト名詞句内における属格照合のメカニズム： 宮内 拓也
ロシア語・ドイツ語からの検証 伊藤 克将
- (D 3) 14:20 ~ オリヤ語において、非情物主語が引き起こす、複文の 山部 順治
統語的縮約
- (D 4) 15:00 ~ 現代朝鮮語の逆条件を表す「副動詞+とりたて」 黒島 規史
- (D 5) 15:50 ~ 漢語福清方言の使役構文 陳 学雄
—“共”を用いた構文を中心に—
- (D 6) 16:30 ~ 手続き的意味による中国語談話標識「怎么说」の分析 楊 雲洪
- (D 7) 17:10 ~ 広東語の文末助詞 aa1maa3 の意味変化 飯田 真紀
- E 会場
- (E 1) 13:00 ~ “Wonder is NOT *want to know*” : 楊 沐藝
埋め込み疑問節を取る動詞の再考
- (E 2) 13:40 ~ 比較を強調する副詞の意味論 田中 英理
- (E 3) 14:20 ~ 英語の名詞句内における特殊な一致現象 前川 貴史
- (E 4) 15:00 ~ 英語における不可算名詞、可算名詞の文法化とその意 金澤 俊吾
味的特徴について
- (E 5) 15:50 ~ スタイル副詞類として機能する *if* 節と挿入辞として 森 創摩
の *if* 節についての考察
- (E 6) 16:30 ~ *Let's* における文副詞的用法及びその拡張について 鷺野 亜紀
- (E 7) 17:10 ~ インド英語における *general extenders* の特徴について 高橋真理子
—内圏・外圏の他英語とのコーパスを用いた共時的比較分析—
- F 会場
- (F 1) 13:00 ~ 英語の述詞関係節の意味機能について 渡辺 良彦
—不定先行詞の場合—

- (F 2) 13:40 ~ 動詞句削除部からの抜き取りに関する派生的カートグラフィー分析 前田 雅子
- (F 3) 14:20 ~ 対併合の再定式化と不可視要素について 大宗 純
- (F 4) 15:00 ~ two-peaked structure に基づく非制限関係節の分析 林 慎将
- (F 5) 15:50 ~ 古典ギリシア語における関係代名詞中性形の接続詞的用法とその起源 應地 晴香
- (F 6) 16:30 ~ アイルランド語の所有文における譲渡可能性について 山田 怜央
- (F 7) 17:10 ~ イタリア語由来の借用語における母音長受け入れと位置の非対称性 田中 真一

。G会場

- (G 1) 13:00 ~ 東クシ諸言語の *converb* について 吉野 宏志
- (G 2) 13:40 ~ バントゥ諸語の関係節に見られるマイクロバリエーション 米田 信子
- (G 3) 14:20 ~ コイサン音韻類型論：初期報告 中川 裕
- (G 4) 15:00 ~ ジンポー語における有気音の無気音化 倉部 慶太
- (G 5) 15:50 ~ ポボロカ語における重層的人称・数標示 中本 舜
- (G 6) 16:30 ~ アラビア語エジプト方言の疑問詞の語順について 長渡 陽一
- (G 7) 17:10 ~ コーランのユースフ章における接続詞 *wa-* と *fā-* の使い分け 榮谷 温子

。H会場

- (H 1) 13:00 ~ トルコ語における存在表現の文文化 デイリック セバル
- (H 2) 13:40 ~ トゥバ語との対照から明らかになるサハ語の規則性と義務性 江畑 冬生
- (H 3) 14:20 ~ ダグール語の2種類の動詞否定形式 山田 洋平
- (H 4) 15:00 ~ 保安語積石山方言の話し手は文が表す事態をどのように捉えているのか 佐藤 暢治
- (H 5) 15:50 ~ フィジー語の接尾辞を伴わない他動詞 岡本 進
- (H 6) 16:30 ~ イロカノ語における空間的直示表現の意味分析 山本 恭裕
- (H 7) 17:10 ~ タガログ語のリンカー並行事態構文と節連結 長屋 尚典

ワークショップ

—第2日 (12月4日 (日)) 10:00 ~ 12:00—

ワークショップ1

- (W 1) 形態統語構造の音韻的外在化 企画・司会：時崎 久夫
- (W 1-1) 音韻論における回帰的併合 那須川訓也
- (W 1-2) 音韻的外在化と解釈可能性 土橋 善仁
- (W 1-3) スカンジナビア語の目的語移動 細野まゆみ
- 統語移動が音声部門から要請される一例—
- (W 1-4) 名詞修飾の語順と音韻 時崎 久夫
稲葉 治朗

ワークショップ2

- (W 2) イントネーション研究の新展開 企画・司会：窪蘭 晴夫
- (W 2-1) 音調研究の方法としての「置換反復発話」 松井 真雪
- Warner (1997) の追検討— ホワン ヒョンギョン

- (W 2-2) 長崎市方言における不定語を含む語・文の音調と複合法則 佐藤久美子
 (W 2-3) 岡山方言のイントネーションの記述に向けて 三村 竜之
 一疑問文イントネーションを中心とした予備的考察一

ワークショップ 3

- (W 3) 日英語比較統辞論研究の現在：自由併合理論における移動と埋め込み
 企画・司会：小林亮一朗
 (W 3-1) 序論 小林亮一朗
 (W 3-2) 日英語受動文の比較統辞論 小林亮一朗
 (W 3-3) 相理論と埋め込み文からの繰り上げにおける日英語間差異 杉本 侑嗣
 (W 3-4) 難易文の統辞論と日英語間差異 永盛 貴一

ワークショップ 4

- (W 4) ミニマリスト・プログラムにおけるパラメータの姿と働きについて
 企画・司会：後藤 亘
 (W 4-1) 言語はなぜパラメータ化されなければならなかったのか 北原 久嗣
 (W 4-2) 形態音韻的要素が narrow syntax に与える影響 野村 昌司
 (W 4-3) 非相主要部の一般化と素性継承の新たな根拠：
 言語の普遍性を追い求めて 後藤 亘

ワークショップ 5

- (W 5) 統語・意味解析情報付き日本語コーパスの構築に向けて
 企画：ブラシャント・バルデシ
 司会：吉本 啓
 コメンテーター：福島 一彦
 (W 5-1) イントロダクション ブラシャント・バルデシ
 (W 5-2) アノテーション方式とコーパスの特色 吉本 啓
 (W 5-3) デモンストレーション アラスデア・バトラー
 窪田 愛
 窪田 悠介
 (W 5-4) まとめと将来の展望 ブラシャント・バルデシ

ポスター発表

—第2日 (12月4日(日)) 11:30～12:50—

- (P 1) 日本語の歯茎摩擦音に後続するウ音について 松井 理直
 (P 2) 理由を表す *wa* 付加詞と補文標識「の」の獲得 團迫 雅彦

◇退会

国内通常会員：3名
国内学生会員：2名
在外通常会員：1名
国内団体会員：1名
7名

◇入会

国内通常会員：28名
在外通常会員：3名
国内学生会員：55名
86名



日本語学会学会賞報告

2016年度の論文賞（2件）

・大竹昌巳氏（京都大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

「契丹小字文献における母音の長さの書き分け」『言語研究』148号（2015年9月）

すでに死滅した言語である契丹語の文字を介して、母音の長短の対立について検討した論文である。現代モンゴル語、中期モンゴル語、モンゴル文語、モンゴル祖語、さらに近隣語族言語と比較しながら、接尾辞等の異形態、同源語、綴字交替、同語異綴などを検討し、二次的長母音の存在と一次的長母音の残存を明らかにした。論証過程は興味深く、当該研究分野の深化と活性化に寄与する論文である。

・矢野雅貴氏（九州大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

“The Interaction of Morphosyntactic and Semantic Processing in Japanese Sentence Comprehension: Evidence from Event-Related Brain Potentials”（共著者：坂本勉氏）『言語研究』149号（2016年3月）

事象関連電位（脳波）を指標として、形態統語処理と意味処理の相互作用を検討した研究である。実験の結果、格違反文と意味役割を逆転した文において左前頭部陰性波とP600が観察された。このことで、統語と意味の処理が刺激呈示後400ミリ秒で相互に作用していることを示唆した。言語をめぐる本質的な問題の解明を目指しており、当該研究分野に大きく貢献する実証的研究である。

第152回大会（2016年春季、慶應義塾大学）の大会発表賞（3件）

・柴田香奈子氏

「修道院手話「手まね」の疑問表現」

本発表は、日本、ドイツ、オランダの厳律シトー修道院で収集したデータに基づいて修道院手話（「手まね」）の疑問表現について分析し、Wh疑問詞にあたる非手指指標の存在や、Yes/No疑問文における質問マーカの文法化などを明らかにしたものである。動画データを用いた発表は効果的で、質疑応答も適切であった。

・峰見一輝氏（共同発表者：津村早紀氏、矢野雅貴氏）

「日本人学習者による英語 filler-gap 依存関係の処理—自己ベース読文実験による検討—」

本発表は、日本人英語学習者が英語の filler-gap 依存関係を処理する際に、Active Gap Filling は行っているが、Hyper-Active Gap Filling は行っていない可能性を、自己ベース読文実験を用いて示したものである。質疑応答でも質問者の意図を汲み取ったうえで適切に対応していた。

・松倉昂平氏

「複合名詞アクセントに見る福井県あわら市北潟方言と高知市方言の対応関係」

本発表は、発表者自身が発見した三型アクセントの北潟方言において、複合名詞アクセントが特異な分布状況をみせる問題について解明を試みたものである。古い形を保存する中央式の高知市方言と比較し、両方言の対応関係を論じた。アクセント研究に新しい知見をもたらす内容で、発表の仕方も明解で丁寧であった。

2016 年度役員

【会長】

窪蘭晴夫

【顧問】

井上和子, 梅田博之, 上野善道, 影山太郎,
梶茂樹, 国広哲弥, 柴谷方良, 早田輝洋,
松本克己

【常任委員】

有田節子, 井上優, 上山あゆみ, 加藤重広,
小泉政利, 小林正人, 斎藤衛, 玉岡賀津雄,
吉田和彦

【事務局】

野田尚史(事務局長), 金城由美子, 内藤真帆

【評議員 (71名)】

[北海道]加藤重広, 佐々木冠, 津曲敏郎[東北]
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉 [関東] 池田潤,
井上優, 上野善道, 大津由紀雄, 大堀壽夫,
荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 影山太郎,
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,
木部暢子, 澤田英夫, 滝浦真人, 角田太作,
長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史, 長谷川信子,
林 徹, 早津恵美子, Prashant Pardeshi, 福井
直樹, 松森晶子, 峰岸真琴, 三宅知宏, 鷺尾
龍一, 渡辺己 [中部] 北野浩章, 呉人恵,
斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美, 玉岡賀津雄,
新田哲夫, 堀江薫, 町田健 [近畿] 有田節子,
上田功, 梶茂樹, 金水敏, 工藤真由美, 定延
利之, 沈 力, 田窪行則, 千田俊太郎, 藤代
節, 益岡隆志, 松本曜, 由本陽子, 吉田和彦,
吉田豊, 米田信子 [中国・四国] 桐生和幸,
酒井弘, 塚本秀樹, 辻星児, 宮崎和人 [九州・
沖縄] 青木博史, 江口正, 狩俣繁久, 金智賢,
平子達也

【編集委員会】

金水敏 (委員長), 家入葉子, 上田功, 江口正,
風間伸次郎, 酒井弘, 高野祐二, 滝浦真人,
堤良一, 松森晶子, 村杉恵子, 吉村公宏,
米田信子

【特別編集委員】

Bjarke Frellesvig, Larry Hyman, Juha Janhunen,
金周源 (Kim Juwon), Christine Lamarre, 富岡
諭 (Satoshi Tomioka)

【大会運営委員会】

内海敦子 (委員長), 尾谷昌則, 越智正男,
小野創, 金善美, 沈 力, 田村幸誠, 中村渉,
新田哲夫, 堀博文, 三宅知宏, 山越康裕

【広報委員会】

中谷健太郎 (委員長), 上山あゆみ, 北原
真冬 (英語ページ webmaster), 呉人恵 (危機
言語担当), 堤良一, 原田なをみ, 那須昭夫
(日本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

佐久間淳一 (委員長), 小野創, 下地理則,
本多啓, 宮本陽一, 渡辺己

【学会賞選考委員会】

斎藤衛(委員長), 呉人恵, 小泉政利, 滝浦真人,
玉岡賀津雄, 早津恵美子, 吉田和彦

【会計監査委員会】

久保智之, 田野村忠温